

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称 : **レクサスガラスコート[油膜取り剤]**
推奨用途及び使用上の制限 : 製品分類－自動車用油膜取り剤
主な用途－自動車用窓ガラスの油膜取り・洗浄用

会社名 : 日本ケミカル工業株式会社
住所 : 〒424-8558 静岡県静岡市清水区吉川8 1 3番地
電話番号 : 054-345-3476
FAX番号 : 054-347-6865
担当部署 : 技術部

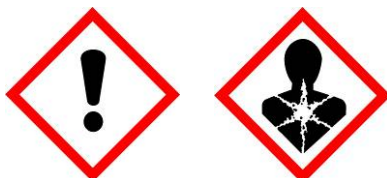
2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性又は引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む)	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	支燃性又は酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	区分外
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
	健康に対する有害性	急性毒性 (経口)
急性毒性 (経皮)		分類できない
急性毒性 (吸入: ガス)		分類対象外
急性毒性 (吸入: 蒸気)		分類できない
急性毒性 (吸入: 粉じん)		分類対象外
急性毒性 (吸入: ミスト)		分類できない
皮膚腐食性及び刺激性		区分3
眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性		区分2
呼吸器感作性		分類できない
皮膚感作性		分類できない
生殖細胞変異原性		分類できない
発がん性	分類できない	

環境に対する有害性	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分1（肺；吸入）
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境有害性（急性）	分類できない
	水生環境有害性（長期間）	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

H316 軽度の皮膚刺激

H319 強い眼刺激

H350 発がんのおそれ

H370 臓器（呼吸器）の障害

H372 長期にわたる、または反復暴露による肺（吸入）の障害

注意書き：

【安全対策】

P264 取扱い後は手をよく洗うこと。

P280 保護眼鏡／保護面を着用すること。

P201 使用前に取り扱い説明書を入手すること

P202 すべての安全注意書きを読み理解するまで取扱わないこと。

P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

P260 ミスト／蒸気を吸入しないこと。粉じんを吸入しないこと（※製品使用時）。

P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

【応急措置】

P332+P313 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。

P305+P351+P338 眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337+P313 眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。

P308+P313 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。

P308+P311 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

P314 気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。

【保管】

P405 施錠して保管すること。

P403+P233 換気の良いところ保管すること。容器を密閉しておくこと。

【廃棄】

P501 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学特性・危険有害成分 : 含有成分及び濃度

化学名	濃度 wt%	CAS No.	化審法 No.	安衛法		PRTR法	毒劇法
				表示対象物	通知対象物		
シリカ	20~30	非公開	非公開	該当	該当	非該当	非該当
炭化けい素	5~10	409-21-2	1-174	該当	該当	非該当	非該当
プロピレングリコール	10~20	57-55-6	2-234	非該当	非該当	非該当	非該当
水	50~60	7732-18-5	非該当	非該当	非該当	非該当	非該当

上記成分のほか、増粘剤（安定剤）、防腐剤を含有する。

化審法No.	: 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）官報公示整理番号
安衛法 表示対象物	: 労働安全衛生法 第57条の政令で定める物（施行令第18条）
安衛法 通知対象物	: 労働安全衛生法 第57条の2 第1項の政令で定める物（施行令第18条の2）
PRTR法	: 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律
毒劇法	: 毒物及び劇物取締法

4. 応急措置

情報

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気の場所に移し、安静にすること。
もし呼吸が不規則な場合や吐き気がする場合は、速やかに医師の診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 付着液を紙、布等で素早く拭き取り、もし衣類や靴が汚染した場合は直ちに脱ぎ、接触部位を水又は石鹸水で十分に洗浄すること。
- 目に入った場合 : コンタクトの有無を確認し、着用している場合は外し、直ちに多量の清浄な水で15分以上洗眼し、瞼の裏まで完全に洗うこと。その後、医師の診断を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに多量の水を飲ませて吐かせ、医師の診断を受けること。
但し、被災者に意識がない場合は、何も与えてはならないし、吐かせようとしてもいけない。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 噴霧水、炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂、その他（ハロゲン消火剤）
- 使ってはならない消火剤 : —
- 特有の有害危険性 : 本製品は引火の危険性はないが、周辺火災の場合には速やかに容器を安全な場所に移すこと。
- 特有の消火方法 : ・保護具を着用し、消火剤を使用すること。
・消火作業は風上から行うこと。
・可燃性のあるものを周囲から速やかに取り除くこと。
・周辺火災の場合には、速やかに容器を安全な場所に移すこと。
・移動不可能な場合は周囲に散水して冷却すること。
- 消火を行う者の保護 : 適切な保護具（耐熱性着衣、手袋、呼吸保護具等）を着用すること。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際には、保護手袋、保護マスク、保護前掛け、ゴーグル等を着用すること。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないようにすること。
- 回収、中和 : 少量の場合、ウエス、土砂等を用いて吸着させて空容器に回収すること。
その後、大量の水で洗い流すこと。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 多量の場合は、土砂、ウエス等で流れを止め、出来るだけ空容器に回収すること。
残量は、大量の水で洗い流すこと。
- 廃棄方法 : 廃棄物は関連法令に基づいて処理すること。

二次災害防止策 : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 適切な保護具(保護手袋、保護マスク、保護前掛け、ゴーグル等)を着用すること。
注意事項 : 換気のよい場所で使用し、容器はその都度密栓すること。
取扱い後は、手洗い、うがい、洗顔を十分に行い、又衣服に付着した場合は着替えること。
接触回避 : 『10. 安定性及び反応性』を参照。
安全取扱い注意事項 : 他の薬品類(特に強酸化剤、強塩基、強酸)との混合は行わないこと。
衛生対策 : 取扱い後は、よく手を洗うこと。

保管

- 技術的対策 : 密栓し、直射日光を避け、風通しの良い冷暗所に保管すること。
凍結する所には置かないこと。
混触禁止物質 : 強酸化剤、強塩基、強酸。
安全な容器包装材料 : 密栓できるもの。ガラス、プラスチック。
-

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

- ばく露限界値 : 製品に関する有用な情報なし。
生物化学的指標 : 製品に関する有用な情報なし。

設備対策

- : 取扱いは、出来るだけ密閉された装置、機器を使用すること。
取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄のための設備を設けること。

適切な保護具

- 呼吸器の保護具 : 必要に応じて呼吸用保護具を使用すること。
手の保護具 : 必要に応じて保護手袋を着用すること。
目の保護具 : 必要に応じて保護眼鏡を着用すること。
皮膚及び身体の保護具 : 必要に応じて保護手袋、保護前掛けを使用すること。
-

9. 物理的及び化学的性質

- 外観 : 灰色粘性液体
臭い : 無臭
臭いの閾値 : 製品としてデータなし
pH : 10.3 (5wt%水溶液)
融点・凝固点 : 製品としてデータなし
沸点 : 製品としてデータなし
初留点及び沸騰範囲 : 製品としてデータなし
引火点 : 分散媒が水であること及び研磨剤が無機物である事等から燃焼しない。
蒸発速度 : 製品としてデータなし
燃焼性 : 製品としてデータなし
燃焼範囲の上限・下限 : 製品としてデータなし
蒸気圧 : 製品としてデータなし
蒸気密度 : 製品としてデータなし
密度 : 1.21 g/cm³ (20°C)
溶解度 : 水に容易に分散する
n-オクタノール/水分配係数 : 製品としてデータなし

自然発火温度 : データなし
分解温度 : データなし
粘度 : データなし

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性 : 常温では安定。
危険有害反応可能性 : 酸化性なし、自己反応性なし、爆発性なし。
避けるべき条件 : 有用な情報なし。
混触危険物質 : 有用な情報なし。
危険有害な分解生成物 : 有用な情報なし。

11. 有害性情報

※下記有害性情報は、GHS勧告により混合物としてのGHS区分を分類した結果に基づく。

急性毒性 : 混合物の急性毒性(経口) 5258mg/kgより、区分外
その他急性毒性については、データ不足により、分類できない、または分類対象外

皮膚腐食性及び刺激性 : 区分3成分 \geq 10%より、区分3
眼に対する重篤な損傷又は刺激性 : 区分2成分 \geq 10%より、区分2
呼吸器感作性又は皮膚感作性 : データ不足により、分類できない
生殖細胞変異原性 : データ不足により、分類できない
発がん性 : 区分1 \geq 0.1%より、区分1
生殖毒性 : データ不足により、分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1成分 \geq 1.0%より、区分(呼吸器)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分1成分 \geq 1.0%より、区分1(肺;吸入)
吸引性呼吸器有害性 : データ不足により、分類できない

追加情報: 組成物質に関するその他の有害性情報

シリカ

刺激性 : 人間の皮膚, 目, 粘膜に対して弱い刺激性がある。
急性毒性 : マウス並びにラットの経口投与時のLD₅₀3g/kg以上。

炭化けい素

急性毒性 : データなし
皮膚腐食性及び刺激性 : データなし
眼に対する重篤な損傷又は刺激性 : データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性 : データなし
生殖細胞変異原性 : データなし
発がん性 : ACGIHでA2と分類されている
生殖毒性 : データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : ラットにおいて区分1のガイダンス値範囲内の用量で、肺水腫, 肺出血, 間質性肺炎, 細気管支崩壊, 肺胞の拡張不全が見られたとの記載 (ACGIH (2003))
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : ヒトで塵肺症, 胸部X線画像の変化, 肺線維症, 結節, 珪肺症が見られたとの記載がある (ACGIH (2003), HSDB (2005))
吸引性呼吸器有害性 : データなし

12. 環境影響情報

水生環境有害性（急性）：データ不足により分類できない
水生環境有害性（長期間）：データ不足により分類できない
オゾン層への有害性：データ不足により分類できない

生態毒性：有用な情報なし
残留性・分解性：有用な情報なし
生体蓄積性：有用な情報なし
土壌中の移動性：有用な情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：事業者は産業廃棄物を自ら処置するか、又は知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合は、そこに委託して処理をすること。
汚染容器・包装：容器は、中身の液を使い切ってから廃棄すること。

※必ず当該地域の廃棄規制をご確認ください。

14. 輸送上の注意

国連分類及び国連番号：非該当

国際規制

海上規制情報：IMOの規定に非該当。
航空規制情報：ICAO/IATAの規定に非該当。

国内規制

陸上規制情報：運搬に際しては、落下、破損による漏出がないようにすること。
海上規制情報：船舶安全法に定めるところに従うこと。
航空規制情報：航空法に定めるところに従うこと。

特別の安全対策：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れの無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。

緊急時応急措置指針番号：該当なし

15. 適用法令

法規制

消防法：非該当
労働安全衛生法：名称等を表示すべき有害物（シリカ、炭化けい素）
名称等を通知すべき有害物（シリカ、炭化けい素）
PRTR法：非該当
毒物及び劇物取締法：非該当
船舶安全法：非該当
航空法：非該当
海洋汚染防止法：非該当
廃棄物の処理及び清掃に関する法律：産業廃棄物規制

※必ず当該地域の法規制をご確認ください。

16. その他の情報

主な引用文献 原料メーカーのSDS

※注意

記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、記載事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。